

## 2024 年度「深田賞」受賞者 顕彰理由

井上 公夫 (いのうえ きみお)

井上公夫氏は、1971 年（昭和 46 年）東京都立大学理学部地理学科を卒業後、日本工営（株）に入社、1996 年（平成 8 年）同社を退職後（一財）砂防フロンティア整備推進機構に入社し、現在に至っている。

井上公夫氏は、日本各地において歴史時代から終戦直後までに発生した代表的な土砂災害の調査・分析を粘り強く続け、災害の発生要因や時系列ごとの経緯など災害の全体像を解明してきた。同氏は、専門とする地形地質的な調査に留まらず、地元の役所・図書館や近隣の寺社なども訪れて災害に関する古文書や絵図等を掘り起こし、それらの史資料と地形地質調査の結果と照らし合わせることで、土砂災害の発生・被災状況を克明に解明してきた。そして、その成果を 2018 年から 2020 年にかけて「歴史的大規模土砂災害を歩く (I, II, III)」の大著として取りまとめた。これは、将来の日本の防災を考える上で貴重な文献として末永く残るものである。

同氏の成果は学会等での発表だけでなく、インターネットを用いた情報発信、講演、現地見学会を通じて、地元住民や一般市民に分かりやすい形で提供されてきた。インターネットでは、「歴史的大規模土砂災害地点を歩く」と題したコラムを、ほぼ月に 1 回のペースで無料公開の土木情報サービスに連載し、その数はすでに 100 件近い。現地見学会では、2000 年以降だけでも 30 回以上、研究者あるいは一般市民を案内し、情報を身近なものとして数多くの人々に提供してきた。また、同氏は、国土地理院が自然災害伝承碑を取り上げるはるか以前から、被災地に建立された慰霊碑等の探索を進めてきており、現地見学会の際には必ず案内し、啓発の一環としてきた。さらに、多くの一般市民が災害を身近なものとして感じる「自然災害を題材とした小説」を 130 件近くリストアップし、大学などの講義や各種講演会等の際に配布し、災害に関する啓発活動を粘り強く進めてきた。

同氏は、日本地すべり学会、砂防学会、地盤工学会、日本測量協会など災害に関連する学会の委員会等に加わり、同氏の知見を分野横断的に活かしてきた。また、国の中央防災会議「災害教訓の継承に関する専門調査会報告書」も分担執筆した。

以上、井上公夫氏の土砂災害に関する研究・普及活動は極めて高く評価され、同氏の長年の強い熱意を称え、ここに顕彰する。

2024 年 9 月 25 日  
公益財団法人 深田地質研究所  
理事長 千木良雅弘